

いのち・とき・なかま

豊中五中
学校だより
H29(2017)年
3.6 発行

大きな歌声がひびいた「ありがとうを歌う会」



3月3日(金)、「ありがとうを歌う会」が行われました。「合唱祭」と「3年生を送る会」をひとつにして、数年前から行われています。卒業していく3年生、クラスの仲間、先生、家族、いろいろな人への「感謝」の気持ちを歌に込めるものです。

3学年そろって取り組み、発表する最後の大きな行事でしたが、どの学年も大きな声で一生懸命歌う姿と、それをしっかり見つめ、聞き入る姿がありました。前日、1・2年生、生徒会が会場を準備し、多くの保護者の方にもご参加いただきました。

初めに全員で発声練習「翼をください」を合唱。続くクラス発表は、どの学年も緊張感と一生懸命さが伝わってきました。

1年生はトップバッターで緊張したと思いますが、女子はよく声が出ており、男子も声がわりで出にくい人がいたかもしれませんが、頑張っていました。

学年合唱の「マイバラード」は卒業シーズンによく歌われる曲、「WINDING ROAD」は難しい曲ですが、よく練習していましたね。声量もハーモニーも、上級生に負けないくらいでした。学年練習で注意されていたことを、本番は意識してやっていたと思います。



2年生は大きな歌声でした。女子はもちろん、男子の声にも力がありました。クラス・学年で元気を出し、がんばって盛り上げようという気持ちが伝わり、崩れることなく一生懸命歌いきっていて、昨年より成長を感じました。

学年合唱「はばたこう明日へ」は“いつかはこの時が、来ると思っていた”という歌詞と、きれいなメロ



ディが「卒業」を意識させてくれます。オリンピックの曲「栄光の架け橋」は音程が高いけれど、一生懸命歌っていました。

そして圧巻は3年生。歌う姿勢がビシッと見事にそろっていて、ひとつになった気持ちが歌声に表れていました。声量も圧倒的で、会場のすべての人がひきつけられ、合唱としての完成度もさすが最上級生だと感じました。

学年合唱は卒業式で歌う曲、「心の瞳」と「道」。美しいメロディとハーモニーで、3年間の生活が思い返される歌詞は、一緒に歩んできた仲間と歌うのにふさわしい曲でした。



学年合唱は3学年とも立派でした。練習ではうまくいかなかったところ、注意されることもあったはずですが、音楽の授業やHRで練習を重ね、本番では大きな声で合唱を披露しました。とりわけ本気で歌う3年の姿は2年・1年に伝わり、「次は自分達の番だ、がんばるぞ」という気持ちにさせてくれたと思います。バトンがまたひとつ受け渡されました。

合唱は歌う人だけでなく、会場一体となって作りあげるものです。今回は指揮者、伴奏者もよく頑張っており、歌い手、聞き手、メッセージを読む人、司会進行、放送係、皆の協力がありました。この日のためによく練習し、入退場の姿勢も含めて、一人一人が歌う会を成功させようと意識していました。しかし一方で、歌っているとき以外に、私語で注意される場所などは課題でした。



3年生には1・2年の学年から、感謝の気持ちを込めたメッセージが送られ、3年からは後輩へお礼と励ましの言葉がありました。

また体育館の窓には、2年生が美術の時間に作った見事なスタンドグラスが飾られ、披露されました。最後に、1、2年議員、生徒会役員のかかげる花のアーチを通して、3年生が体育館を後にしました。



気持ちをひとつにした今回の頑張りを活かし、これからの1日1日を大切にしていきましょう。



来週は卒業式

3月9日（木）は公立一般選抜、そして来週14日（火）はいよいよ卒業式です。言うまでもなく、9年間の義務教育のしめくり、一生に一度の大切な機会です。3年にとって最後の授業であり、中学校生活を振り返り、後輩に決意を述べる大きな節目です。3年生は「卒業生」、2年生は「在校生」と呼ばれます。参加する全ての者がしっかりと自覚し、素晴らしい卒業式にできるよう、協力してほしいと思います。今週から、卒業式に向けた練習が始まります。

1年生 あいさつ運動

1年生の議員会で話し合い、下足室で朝のあいさつ運動をしています。議員だけでなく、誘い合って大勢で声をかけています。みんなで学年の課題を考え、良い形で1年間をまとめ、次のステップに踏み出せるよう行動しています。



東日本大震災（3・11）を忘れない

東日本大震災から、まもなく6年になります。亡くなった方、行方不明の方は合計1万8千人を超え、今なお約12万人のかたが、仮設住宅や他の地域での不自由な生活を余儀なくされています。時間がたつにつれて、記憶は少しずつ薄れていきますが、1/17の阪神淡路大震災も東日本大震災も決して忘れてはならないと思います。

「何がおき、これからどんな日々が待っているかなんて、想像することも考えることもできなかった」・・・失った家族とどう向き合うか。被災地の模索はなお続く。埋めようのない喪失感に苦しむ人がいれば、自らの記憶の断片を拾い集める人もいる。物心つく前に被災した子どもたちも、家族の姿を胸に刻みたいと感じる年齢にさしかかりつつある。（3/5 朝日新聞天声人語から）



地震や津波だけでなく、原発事故の処理や放射能の問題も続き、産業や生活の復興は、多くの課題を抱えています。福島県から非難した人に対する心無い言動が報道されることもあり、いたたまれません。

いつも言うことですが、私たちは、家があり学校で勉強やクラブ、行事ができるのは「あたり前」だと思っていますが、その事がどれほど貴重でありがたいことか。五中で大切にしている「いのち・とき・なかまにこだわり1日1日の生活を大切に過ごす」「はみごのないまち・学校づくり」ということについて、また防災について、改めて考える機会にしたいと思います。

PTA からお知らせ

3月1日、今年度最後の運営委員会がありました。各委員会の活動を振り返り、次年度に向けた交流をしました。1年間たいへんお世話になりました。誠にありがとうございました。

また来年度の役員・運営委員会の方が全て決まりました。それぞれ、引継ぎが行われており、3月21日には、新年度運営委員会の立ち上げ（通称ゼロ会）が行われる予定です。

なお、以前お知らせのあった会計監査が福田真紀さん ⇒ 久保麗子さん（現副会長）に変更となりました。